

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400309		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム ほしおき		
所在地	札幌市手稲区星置1条4丁目2-12 星置駅前メディカル2F		
自己評価作成日	平成25年11月25日	評価結果市町村受理日	平成26年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0190400309-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【基本理念】①いつも笑顔で暖かく見守ります。②目配り、気配り、心配りを大切にしてチームケアを行っていきます。③地域とのふれあいを大切に明るい穏やかな生活をしていきます。以上の3点をベースに毎日のケアに励んでいるホームです。
同ビル一階には内科があり、ホームの主治医として、日、祝日以外は毎日2~3人づつ訪問診療の協力を頂いており、その他健康状態など色々な相談に乗って頂いております。
JR星置駅から数分の場所にあり近所のスーパーや公園などで散歩を楽しんだり、町内会の活動にも参加し色々な所での交流を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム ほしおき」は、JR星置駅から徒歩数分の星置駅前メディカルの2階に位置している。近隣にはショッピングセンターや交番、水芭蕉が楽しめる公園などがあり、生活面や防犯面に恵まれた環境にある事業所である。同じ建物内には内科と整形外科の協力医療機関もあり、日々の往診と共に、緊急時も適切な対応を行うことが出来、利用者や家族、職員の安心感にもつながっている。同じフロアに2ユニットがある造りで、お互いが行き来しながら協力した支援が行われている。今年9月に着任した管理者は、今までの経験を活かしながら、全職員で取り組んだ自己評価や外部評価から新たな課題を見つけて各利用者の過ごしやすい環境作りを目指すなど、常に向上心を持って運営に取り組んでいる。また、法人としての各種書式の統一に伴い、新たな書式やマニュアルを基に内部研修を重ねながら、事業所として更なるケアの充実を目指している。毎日朝夕の申し送り時に理念を唱和したり、理念に沿って日々のケアを振り返る事で、職員の理念への理解も深められている。運営推進会議にも多くの家族が参加して意見交換が行われるなど、職員と家族が共に協力しながら利用者の生活を温かく支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(おおぞらアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、各ユニットに掲示しており、常時確認、共有できるようにしている。朝、夕の申し送り時に一緒に読み上げて共有、確認している。	「地域とのふれあいを大切に明るい穏やかな生活をしていきます」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。新人研修やカンファレンス、日々のケアの中で事例に沿って理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	メディカルビル2階ではあるが、町内会に参加して、地域活動の参加を行っている。地域の夏祭りやボランティアを招いての交流を図っている。	地域のふれあい喫茶に参加したり、地域のフェスティバルで住民が施設見学に訪れている。中学生の職業体験も毎年受け入れている。今後は地域の保育園や幼稚園に働きかけを行い、子供達と交流する機会を作って行く意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回の運営推進会議において、ご家族、町内会、地域包括支援センターの方々に認知症ケアの在り方や離脱事故の時の連絡方法など話し合いをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実施内容、行事活動報告などの話し合いを行っている。自己評価及び外部評価結果の内容についても話し合い、率直な意見も聞ける事が多い。	連合会役員と多数の家族も参加して2か月毎に開催し、避難訓練やヒヤリハットの報告、感染症などについて取り上げている。会議案内と議事録も全家族に送付している。今後は年間テーマを設定して、更に充実した会議にする意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市、手稲区の管理者会議に参加して、地域包括支援センターの職員は、運営推進会議に参加してもらい、意見などを頂いている。区役所を訪問して入居者の状況説明や家族の対応方法、その他相談などを行っている。	管理者は、介護保険制度やおむつサービスなどについて相談したり、分からない事があれば直接役所を訪問して課題を解決している。入居状況の確認などはメールで連絡を取っている。生活保護課担当職員とも、定期的に情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や研修会などで支援についての話し合いの場が持たれており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人として、禁止の対象となる具体的な行為を含むマニュアルを作成し、新人研修や定期的な面談で具体的に内容を説明して理解を深めている。身体拘束に関する小冊子も全職員に配布している。会議の中で、言葉の拘束についても再確認している。ユニット出入口にはセンサー設置して、安全に配慮しながら自由な出入りを見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や研修会などで支援についての話し合いの場が持たれており、虐待防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会は開催されており、外部研修などに参加して学ぶ機会を増やしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時では、十分な説明を行っており、理解、納得を図っている。改定時の際は、本社より書面での説明と電話連絡、ホーム来訪時には管理者からも説明し理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は自ら訴える事はなかなか出来ないケースが多いが、普段の生活の中から感じ取り、カンファレンスなどで内容を確認している。本社から家族様へのアンケート調査を行い、それらを運営に反映させている。	定期的実施している法人アンケート項目に、事業所の意向も反映できるようになっている。家族の来訪時や介護計画の見直し時に本人の状況を報告して、希望や意向を聞き取るように配慮している。家族からの意見は、個別に記録している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議等において意見、要望を聞き、月一回の月例会議にて運営者に報告している。	会議の前に議題を提示して、参加できない職員の意見も聴き取り、全職員の意見や提案が反映できるように工夫している。ケアの方法や業務内容についても意見交換が行われている。毎月、職員が交代で行事などを担当して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に合わせて個別に面談する機会を設けながら意見交換等を行い、各自が向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症グループホーム協会の研修等や地域における講演会等に積極的に参加して、職員を育てる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の内部研修会を行い、職員同士の交流する機会を設け、サービスの質の向上への取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、思いや現在の状況を把握し、少しでも関わりを多く持ち、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等から、サービスの利用前に、困っている事、不安な事、要望等を聞き、関係を作っている。家族の訪問時には随時、話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族記載のフェースシートと実際が違う事があるが「その時」で見極めて、変更して必要な支援を出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況を見極め、一緒に食事準備、片付け等出来る範囲で行い、お互いに信頼し合い、立場をわかまえ、快適に過ごせるように努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族に逐一報告し、家族と一緒に本人に対して何を支えていくのが良いかを考え行動している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には馴染みの物を持って来て貰っている。また、友人、知人が訪問してきてても自由に面会してもらってる。	近所に住んでいた知人や学友が来訪したり、家族の支援の下、馴染みの美容室やお墓参りなどに出かけている利用者もいる。今年は、個々に応じた支援を行いながら、年賀状作成の取り組みも行ってみたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要以上の介入は避け、孤立しないようにさり気なく関わりを持つように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後、必要に応じて相談ののって対応して支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話に重点を置き、把握に努めている。希望を出す事が困難な場合は表情、暮らしぶり等を通して検討している。	居室や夜勤などの機会に個別に会話をして、本人の思いや意向を聞き取るように工夫している。新しい情報の蓄積は、利用者に応じて記録方法が異なり、現在統一した記録は行われていない。	法人としてアセスメントシートの書式を統一する意向なので、新しい書式の下、全員の情報の蓄積が定期的に行われるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の会話の中やセンター方式等を利用し、興味のある事等を把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で連絡を密にして、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員がモニタリング用紙を記載し、毎月のケアカンファレンスを通し、検討し実践している。	新規利用者の介護計画は、1か月で見直しを行っている。大きな状態変化がなければ、毎月のカンファレンスを基に、計画作成担当者を中心に検討して3か月毎に新たな計画を作成している。日々の記録は、介護計画を意識して記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のアセスメント表に記載して、職員全員で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望、要望に対して柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターや町内会と連携を取りながら、本人の心身の力になるように、暮らしを楽しむ事が出来るように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同ビル内には内科、整形外科があり、受診や訪問診療などで支援している。	本人や家族の意向により、かかりつけ医の継続は可能になっている。同じ建物内にある協力医療機関が日、祝日以外往診し、各利用者が2週間毎に受診している。他の専門医を受診する場合は、家族と共に職員も同行して健康状態を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同ビル内の内科の看護師が、医師の指示のもとで支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、直ぐに介護添書を作成して病院に情報提供をして、病院関係者との関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、事業所の方針を口頭説明している。現状では医療行為が発生する場合の看取りは行っていない。利用者が重度化した場合は、状況に応じて本人、家族等には、医師を交えて方針の話をしており、職員間でも共有している。	今年9月より、医療連携加算制度を適用している。「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」を作成して、利用者と家族に説明して署名捺印をもらっている。常時医療行為が必要になった場合は、事業所での対応は難しい旨を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に対するマニュアルは全職員把握している。職員は交代で研修等に参加して他職員にフィードバックを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策体制は出来ている。定期的に利用者参加で消防署立ち会いのもと避難訓練を行っている。	消防署の協力の下、年間2回昼夜を想定した火災避難訓練を行っている。法人が新たに整備した、地震・風水害マニュアルを利用して勉強会を予定している。避難訓練への地域住民の参加と災害備蓄品の整備は、今後の課題となっている。	役割分担を明確にし、地域住民が参加した避難訓練が行われるように期待したい。また、法人と検討し、利用者の状況に応じた災害備蓄品が早めに整備されるように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が意識を持って行っている。利用者への声掛け、サービスを行う時には、誇りやプライバシーの保護に努めている。	利用者の呼びかけは「さん」づけを基本としているが、一部に利用者への話しかけの口調が気になる場面が見られる。個人記録の保管場所も検討が必要と考えられる。	全職員が利用者の人格を尊重した言葉がけができるよう、職員間で確認し合うことを期待したい。また、記録類を利用者の手の届かない場所に保管することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすいように説明して、少しでも意志を引き出す事が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を中心に考え、十分な話し合いの下、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に着る服を選んでもらったり、さり気なく声掛けをしたり、髪をといたり、身だしなみやおしゃれを支援している。家族の希望により買い物同行で服選びを自己決定している。毎月訪問理美容サービスを利用している。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの芽取りや食器の片付け、食器拭き等出来る事を無理なく行って貰っている。	利用者は、能力に応じて下ごしらえや食器拭きなどを手伝っている。職員も一緒に同じ食事を摂っており、音楽をかけ楽しい雰囲気をつくっている。献立と食材は本社から提供されるが、好みに応じて調理法を変えるなどの対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の管理栄養士の指導のもとで栄養バランスが考えられている。毎日水分量表で把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行われていない。朝夕のみである。個別の状況で必要に応じて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適時声掛け、誘導を行い、自立にむけた支援を行っている。	トイレ誘導が必要な利用者は半分程度であるが、排泄チェック表で全員のパターンを把握し、羞恥心に配慮して誘導している。昼夜ともできるだけトイレで排泄できるように支援しており、利用開始後にオムツ等の使用が改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便サイクルを常に把握し運動が少ない入居者には腹部マッサージを手伝い自然排便の働きかけをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通常午後から週2～3回の入浴で当日の健康状態、精神状態等を考慮し、本人の希望に沿うように支援している。	毎日入浴可能で、概ね午後の時間帯で各利用者が週2～3回以上の入浴を行っている。拒否がある場合は翌日にずらしたり、時間や職員を替えて促している。湯温や入浴の長さ、同性介助など希望に沿って調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせて室温、湿度、音等の環境調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば、その都度確認をして、本人の状況に合わせた服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事など身体状況や力量に応じて参加してもらい、何らかの役割を持てるように、支援している。毎日レクリエーションに参加してもらい、気分転換等の支援をしている。毎月の行事は、職員が企画、計画して行っている。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調を考慮して天気の良い日は近隣を散歩したり、ホームの車で公園や海を見に行ったりして季節感を味わってもらっている。	天気の良い日は近くの公園や団地の花壇、ショッピングセンターなどに散歩や買い物に出かけ、月1~2回は海辺や広い公園にドライブに出かけている。年間行事では花見や紅葉狩り、日帰り温泉、外食ツアーなどに出かけており、今後は冬季の外出行事の充実も検討して行く意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で個々の預かり金は無いが、会社立替金として職員と一緒に買い物等に行き使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望があればいつでも家族の方とお話出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が落ち着ける環境作りに努めている。また、季節感のある絵、飾り付け等を工夫している。	2ユニットが1フロアーにあり、事務所を挟んでお互いが行き来がしやすい造りになっている。各ユニットの中心に居間と食堂があり、壁には利用者の写真や季節の装飾、絵画などが飾られ、遊び道具なども配置され、楽しい雰囲気をつくっている。温度や湿度、明るさも調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は自由な場所ですごして頂き、窓際のソファーやテレビの前の椅子などで、思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら安全に配慮して、出来るだけ馴染みの物を持って来て貰っている。	居室の入口には写真付きの表札があり、室内は利用者が使い慣れたテレビやタンス、飾り物などを持ち込むことができ、居心地よく過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーや作品、手作りの装飾などを自由に飾り付けしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、室内全てがバリアフリーになっており、手摺りの位置、トイレや自分の居室等はすぐにわかるようになっている。混乱した場合等はさり気なく誘導をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400309		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム ほしおき		
所在地	札幌市手稲区星置1条4丁目2-12 星置駅前メディカル2F		
自己評価作成日	平成25年11月25日	評価結果市町村受理日	平成26年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「おおぞら ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0190400309-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年12月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、各ユニットに掲示している。朝、夕の申し送り時に一緒に読み上げて共有、確認し実践に繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加して、地域とのつながりを保っている。ボランティアを招いての交流や地域の夏祭りの参加など行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回の運営推進会議において、ご家族、町内会連合会、地域包括支援センターの方々に認知症ケアの在り方や理解などについて話し合いや説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施内容、行事活動報告、自己評価及び外部評価結果の内容などについて話し合い、意見をいただきサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市、手稲区の管理者会議に参加している。地域包括支援センターの職員は、運営推進会議に参加してもらい、相談やサービスの取り組みなど意見を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議などでの勉強会や研修会などで支援についての話し合いを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や研修会などを通じ、虐待の防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会は開催されており、外部研修などに参加して学ぶ機会を増やしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時について重要事項をわかりやすく説明し理解、納得を図っている。改定時の際は、本社より書面での説明と連絡、来訪時には管理者からも説明し理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口をホーム内に設けており体勢をとっている、利用者自らの訴えはなかなか難しいが、普段の生活から感じ取り、カンファレンスなどで内容を確認している。本社からも家族様へのアンケート調査を行い運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の月例会議や職員会議等において意見、要望を聞き運営者に報告し反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談する機会を設けながら状況に合わせ意見交換を行い各自が向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域における講演会等の参加、外部研修(札幌市)や社内の内部研修等に参加して職員を育てる取り組みを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の内部研修会を行い、職員同士の交流する機会を設け、サービスの質の向上への取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は本人の希望や、現在の状況を把握し、少しでも関わりを持ち信頼関係を作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が感じている不安や心配、困っている事などいつでも連絡を入れて欲しい旨を伝え話を聞いている。要望に傾聴し信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初期は心配や不安が大きい為、ご家族、本人が何を必要としているのか、何が支援出来るのか相談して対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のその時の状況に合わせて一緒に食事の準備、や整理整頓など出来る範囲で行い、お互いに信頼し合える関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か相談された時や家族の来訪時など本人、家族と一緒に話合いの場を持ち絆を大切にしながら、支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には馴染みの物を持ってきて飾ったりしている。友人・知人が自由に面会が出来るよう配慮し、途切れる事のないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の集団参加やコミュニケーションを通じて1人ひとりが孤立せず支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービス利用終了後相談にのって対応、支援に努めている。家族からの様子連絡もあり支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの訴えや希望、思いを把握して全員で検討している。本人が希望を出す事が困難な時は表情や暮らしぶりなどを通し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全員の顔色や健康状態、生活の変化の把握に努めている。職員全員で環境づくり等話し合いを行いサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態の把握に努めている。個々に合ったその方らしい過ごし方をされるよう現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを月1回全体会議として行い現状に即した介護計画を作成しています。毎月のカンファレンスを通し、検討し実践している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のアセスメントに記入し、その都度話し合いを行い職員全員で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の健康状態、精神的な訴えに対応している。家族の要望、相談には電話や来訪時に対応して柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターや町内会との協力を得て、本人が心身の力を発揮し楽しむことができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	当ビル内1階に主治医でもある内科があり訪問診療等で支援している。入居時には本人の健康診断をし家族とも面談して、本人、家族が納得が得られる医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医でもある同ビル内の内科の看護師が、医師の指示のもとで支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院関係者との情報交換や関係づくりを大切にしている。入院した際には介護添書にて情報交換や相談に努めている。早期退院にはソーシャルワーカーからの情報で相談して家族との連絡を取りながら、受け入れ対応を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、事業所の重要説明に記載されている内容を十分説明している。利用者が重度化した場合は早い段階から医師と相談し、また家族と話し合いをして、本人の一番よい方法で支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時のマニュアルは職員全員で把握しているが、応急手当や対応の訓練を定期的に行っていない。職員は交代で研修に参加して他職員に勉強会等にて伝え共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災対策を行っている。利用者参加で昼夜想定にて、消防署立ち会いのもと避難訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	禁句集を作成し、全職員が誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を意識を持って行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何を希望しているのか、利用者の思いや希望を遠慮しないで表わせるよう傾聴し、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を中心に考え、個々の暮らしを大切に、その時々何をやりたいか意見を聞いて、出来るだけ希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さりげなく声掛けし本人に着る服を選んでもらったり、介助が必要な利用者には、どちらを着るか選んで頂いたり、身だしなみやおしゃれを支援している。毎月訪問理美容サービスを利用している。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、職員は同じテーブルで一緒に食事をしている。利用者にもやしの芽取りを手伝ってもらったり、食器の片付け、食器拭きなど出来る事を無理なく行って貰っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の管理栄養士の作成した献立表があり、栄養バランスの整った食事となっている。水分量は平均1500ccだが、個々利用者の身体状況を職員全員で把握して、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の介助が必要な利用者には職員が口腔ケアを支援している。自力で行える方には声掛け、見守りを行っている。夜は義歯の方は全員預かり、週3~4回ポリドントで洗浄して清潔保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助は個々のパターンに合わせトイレでの排泄を支援している。排泄失敗時には声掛けに注意し誘導を行い自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床後に牛乳や朝食後ヨーグルトなど摂取しているが、これだけで排便は難しいので腹部マッサージを手伝い自然排便の働きかけをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態、精神状態等を考慮し週2~3回入浴の声掛け誘いを行っている。一人ひとりの希望やその時のタイミングに合わせて入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて室温、湿度等の環境調整をしている。眠れない利用者には、談話しながら話に傾聴し安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で服薬について把握している。症状の変化にもバイタル測定し、服薬の目的、用法、用量の確認に努めている。変更時は、その都度確認し、本人の状況に合わせた服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション参加を通じて気分転換ができるよう支援をしている。一人ひとりの身体状況や力量に応じて簡単な家事などに参加してもらい、何らかの役割を持てるように支援している。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調に応じて天気の良い日はホームの車でドライブや近隣を散歩したり、季節感を感じられるように支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で一人ひとりの預かり金はないが、会社立て替えとして、金銭は事務所で管理している。買い物や支払いは職員と一緒にやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があれば、いつでも家族や大切な人に電話が出来るように支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着ける環境づくりに努めている。職員は利用者から見て常に分かる場所に居よう心がけ安心して過ごせるように配慮している。トイレも広く使えるように綺麗にしている。また、季節感のある絵、飾り付けを工夫している。。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣のユニットに行ききしたり、気の合った利用者同士でソファに座り話をしたりと利用者一人ひとりが思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時や入居してから安全に配慮しながら、出来るだけ使い慣れた物を持ってきてもらい、落ち着いて過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっている。出入り口、洗面所、台所、居室等利用者がすぐに分かるようになっている。自立した生活が送れるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームほしおき

作成日：平成 25年 12月 29日

市町村受理日：平成 26年 1月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	法人としてアセスメントシートの書式を統一する意向なので、新しい書式の下、全員の情報の蓄積が定期的に行われるように期待したい。	アセスメントシートを使用し、定期的に入居者様の情報の蓄積と見直しを行う。	アセスメントシートの書式作成後、シートの活用方法を確認し、情報の蓄積が出来るように取り組み、定期的に見直しを行い情報を有効に共有できるように活用していく。	1年
2	35	役割分担を明確にし、地域住民が参加した避難訓練が行われるように期待したい。また、法人と検討し、利用者の状況に応じた災害備蓄品が早めに整備されるように期待したい。	避難訓練時、近隣地域住民に参加して頂けるようにし、実際の災害時にどのような役割を行って頂くか理解して頂く。	避難訓練時の近隣地域住民への参加の呼びかけを積極的に行い、実際に行って頂く役割を説明し、災害時の緊急連絡者を選任し、災害時の協力体制を構築する。	1年
3	36	全職員が利用者の人格を尊重した言葉かけをできるよう、職員間で確認しあうことを期待したい。また、記録類を利用者の手の届かない場所に保管することを期待したい。	利用者様に対し尊敬の念を持ち、日々の生活の中でも適切な言葉かけ、対応を行う。	各ユニットで利用者様に対しての言葉使いに対して話し合い、両ユニットで挙げた内容を検討し、禁句集の作成を行う。記録類に関しては現在の保管場所を確認し、利用者様の手の届かない位置にするよう見直しを行う。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。